と述べた。

同日は、フリーアナウンサーの徳光和夫さんを認知症予防大使に任命した。徳光さんは「認知症は予防できると聞いて目からうろこ。認知症予防に社会的に大切だとか。覚悟をもって取り組んでいきたい」と意欲を語った。

浦上理事長は、徳光さんの対談では、徳光さんが認知症予防のために運動している人が多いと紹介。果たしてそれは正しいのか。学会を事長が、イギリスの著名な医学誌で「認知症予防と思う煙、抑うつ、高血圧、低い教育レベルなども

また一世界では3秒に1人が認知症になっ

2019.6.7 福祉新聞

完全人工光の野菜工場

群馬・高崎のソーシャルハウス

種をまく利用者

成長する野菜

群馬県高崎市のNPO法人ソーシャルハウス（瀧澤啓理事長）は、就労継続支援B型事業（定員20人）として完全人工光を利用した農福連携の「野菜工場」を運営している。

工場は、季節・天候に左右されず、年間を通じて一定の環境下で生産されるために「寒い」「暑い」などの身体的負担が少なく、「一貫生産のため、利用者がすべての工程に携わることができ、自身の仕事が商品にどう関わっているかが明快で、仕事に〝やりがい〟を持ちやすい」と三木紘平・職業指導員。

工場は、高崎の工業団地内にあり、利用者は朝9時に出勤。午前が農作業、午後に自立支援プログラムが組まれ午後3時半に終了。土日は休日。一時金支給が年2回ある。体調不良などで欠勤が生じるため、現在の平均工賃は月1万5000円だが、フル出勤できれば平均工賃も2万円以上が可能だという。

栽培品種はレタス類が主で、1日当たりの生産量は200～250株。現装置で500株の生産が可能。主要納入先は市内のスーパーマーケット、ホテル、レストランなどで、火曜日に行われる工場店頭での販売も好評だ。

（荻原芳明）

こども食堂の応援基金設立

埼玉県社協

埼玉県社会福祉協議会は、「こども食堂応援基金」を設立し、4日から寄付の募集を開始した。子ども食堂や無料で通える塾、プレーパーク（遊び場）など多様な子どもの居場所の立ち上げ・運営のための資金として活用する。

インターネットか郵送で手続きができる。問い合わせは埼玉県社協基金担当（☎048・822・1435）まで。

福祉ことばのいしずえ

事者を支えることはできない。またそのような社会状況も社会不正義の一つであるにもかかわらず、その改善・解の大義」を見失い、ソーシャルワークを委縮させてしまっているのは、他ならぬ私たち自身ではないだろうか、と自問したい。

団に障害福祉賞」の作品を

第5回NHK

新子の成長記録な

——の2部門。800字以内の自作未発表作品に限る。点字の場合は32マス×450行以内。自分で書くことが難しい場合は、清書・口述筆記などでもよい。入賞すると賞状、賞金、副賞が贈られる。

7月31日締め切り。

応募方法など詳細は同事業団ホームページを参照。

私はその部分が未熟です。子どもの前に立つとき、はっきり堂々と話せるようになりたい」と前向きに自分を磨こうとしている。

技術の未熟さは子どもを愛する気持ちでカバーしている。子どもの特徴は千差万別で、誰と遊んでいても、すぐにけんかを始めてしまう子もいる。「始めのうちは聞き入れてくれなくても、コミュニケーションやスキンシップを続けるうちに、徐々に信頼関係を築いていって、相手の気持ちが分かるようになったり、話を聞いてくれるよ

社会福祉
びと
蟻塚昌克著
題への向き合い方”とは
の社会福祉を築いた多くの先達たちの
向き合うポイントを学びます。
法律がない、資金がないなどの多くの困難を突
いない人への支援に果敢に取り組み、日本の社会
実践には、現代の福祉課題に向き合ううえでの多
背景に何があったのか、取り組むうえでのポイン

●社会福祉法人 全国社会福祉協議会 編

保育の友 増刊号
私たちの指導計画 2019
平成30年度『保育の友』連載「私たちの指導計画」から
年間・月間指導計画、保育のポイント、保育のエピソード
実践記録、保育のヒントを年齢別にまとめた保育関係者
携の書。ぜひ、ご活用ください。
●全国社会福祉協議会 編
●B5判
[0・1・2歳児]